

## 行く年来る年☆2009年を振りかえって

☆第42回はたらくもの音楽祭

☆第1回自治労音協コンサート

5月9日(土) 午後1時30分〜10日(日) 午後1時まで、日立シビックセンター音楽ホールで、日本音楽協議会(日音協、飯島貞親会長)主催の第42回はたらくもの音楽祭が開催されました。  
自治労は『プレゼント』『アジアの風』を松本さんのアレンジで合唱しました。  
音楽祭前日には、自治労音楽



ブービーバンド(札幌市職)も出演



音楽祭に自治労は合唱で出演

協議会主催で第1回自治労音協コンサートが開催され、全国から40人が参加しました。日音協各県支部からも聴衆参加がありました。

## 新春のお喜びを申し上げます

昨年は、茨城ではたらくもの音楽祭に多くの会員の皆様と出演することができました。二〇一〇年は新潟で開催されます。日常の成果を発表する場として、新生日音協に結集し働くものの文化活動を交流し前進させていきましょう。

自治労音楽協議会会長 磯野 友一

2010年 元旦



自治労音楽協議会で合唱発表(この写真は合成です)

♪事務局からの  
お知らせ!

みなさまからの投稿をお待ちしております!

E-Mail: [jicogawa@jca.apc.org](mailto:jicogawa@jca.apc.org) 住所変更は必ずお知らせください!

『自治労音協ホームページ』URL 先は <http://www.jca.apc.org/~jicogawa/>

『自治労と音楽のページ』URL 先は <http://www33.ocn.ne.jp/~tmatsu/>

『日本音楽協議会のページ』URL 先は <http://www.yomogi.or.jp/~uncle/>

# 「負けたくない」という気持ちで「民謡熱」を再発

## 歌は、人の心を癒し暖める

安藤 貴志（東京清掃労組・自治労東京都本部青年部長）

「子供の頃は、いやいややらされていた民謡も、今では好きになってきた。」両親の影響で小さな頃から唄っていた民謡も、かれこれ27年を数える。

「子供の頃は、いやいややらされていた民謡も、今では好きになってきた。」両親の影響で小さな頃から唄っていた民謡も、かれこれ27年を数える。

「子供の頃は、いやいややらされていた民謡も、今では好きになってきた。」両親の影響で小さな頃から唄っていた民謡も、かれこれ27年を数える。

「子供の頃は、いやいややらされていた民謡も、今では好きになってきた。」両親の影響で小さな頃から唄っていた民謡も、かれこれ27年を数える。

当時、姉が7歳、自身5歳の時、あるテレビ番組に出演し、準優勝の賞品として、当時大人気(?)だったコンピュータゲーム機「MSX」をもらい、うれしかった記憶がある。

当時、姉が7歳、自身5歳の時、あるテレビ番組に出演し、準優勝の賞品として、当時大人気(?)だったコンピュータゲーム機「MSX」をもらい、うれしかった記憶がある。

当時、姉が7歳、自身5歳の時、あるテレビ番組に出演し、準優勝の賞品として、当時大人気(?)だったコンピュータゲーム機「MSX」をもらい、うれしかった記憶がある。

当時、姉が7歳、自身5歳の時、あるテレビ番組に出演し、準優勝の賞品として、当時大人気(?)だったコンピュータゲーム機「MSX」をもらい、うれしかった記憶がある。



発表会での着物姿で家族とワンショット

始めた平成14年度東京都職員文化会民謡コンクールでは、民謡の諸先輩方を差し置いて総合優勝。また財団法人日本民謡協会の主催してい

### ◆第43回はたらくもの音楽祭 新潟に決定…時期は10月◆

◇2010年10月9・10日

◇新潟りゅーとぴあ劇場

山本英二さん、山本すいのさん、高野さん、山田さんと日音協幹事会が相談して準備を進め、連合新潟にも内諾をいただいた。  
第2回自治労音協コンサートも開催する予定だ。会員のみなさまの参加をお願いします。

## 西藤安彦さん山本潤子さんの結婚式に音楽仲間が結集

11月28日に、滋賀県守山市職労委員長の西藤安彦さんと竜王町職の山本潤子さんがめでたく結婚されました。

当日の結婚式と披露宴に多くの音楽仲間が招待されました。披露宴には、Baby★

肉白(福島)、日音協近畿支部の仲間が出演しました。夕方からの祝う会は、さながらコンサートイベントとなりました。



ウエストピーチ演奏



肉白バンド(福島)



結婚式に参列したなかまたち

# ◆私のギター人生◆ パート8

## ★とうとう病院にギターを

狭石 利美(自治労東京都本部)

### とうとう病院にギターを 暗黙の了解

### 抜群の音響効果

今回は突然入院することになった経過と入院生活の一端を紹介した。といつてもほとんど空腹に悩まされたこと(要するに食べる)ばかり書いたから、今回は本題に戻ってギターのことを書くと思う。

医師や看護士さんには一切何も聞かないでやった。役所や病院などいわず「お堅い」職というの、正式に聞かれると建前上というか一応というか、「おおっぴらに許可するわけには行かない」という変な傾向がある。まして入院患者が病院内でギターを弾くなんてことは、

ビルの階段というのは横は壁と大きなドアで仕切られており、縦は「吹き抜け」状態だから音がぶつかり合うこともなく非常に音響効果に優れている。人間はほとんどエレベーターで動くし、まず通らないから邪魔されることもない。

### お見舞いの礼儀

またまた本題から外れて恐縮だが、私流のお見舞いのコツというか礼儀(みたいなもの)を書いてみたい。もちろん病気の種類、その程度は十分考慮しなければいけないが…。

もあればその人が来てくれるだけで最高のお見舞いになるだろうが、普通の友人としていく場合はそういう訳にはいかない。したがって何を持っていくかが大切なポイントになる。

とにかくその人が何を趣味にしているのかは、お見舞いに行くとき大いに参考にすべきことである。入院しながらも自分の趣味で楽しく時間をすごすことができる、そういうお見舞いは退院して時間がたつてもきつと心に残って決して忘れることはない。

病院というところは本当に退屈なところで、しかも腎臓病の場合(糖尿とかほかにもいっぱいあるだろうが)食事制限がきつくてまともな食事が出ない。味も素っ気もないとはああいいう料理を言うのだと思った。一ヶ月もしたころだったろうか。好きなことはやれず食べる楽しみも奪われ、そんな生活に我慢できず妻に頼んでとうとうギターを病院に持ち込んだ。夜はさすがに遠慮したが、昼間人が通らないような階段の踊り場近くとか、屋上に出る前の階段とかに腰かけて弾いた。

一般的にはあまりないことかと思う。あまり目立たないように、黙って勝手にやる分には目を瞑ってくれることが多い。案の定、誰に文句を言われるわけでもなく、たまに患者の家族が洗濯物を干しに屋上に上ってくる途中しばらくギターを聞いていたり、話しかけてきたときは世間話をしたりした程度で、階段でギターを弾くことについて誰にも何も言われることはなかった。(こういうのは「暗黙の了解」とは違うかも)

音響の練習には、外界との音が遮断されてしかも極力音響がいいところがいい。演奏に集中できるし、自分の音をよく聞くことができる。そうすると自然にできるだけきれいな音を出そうと努力する。

またまた本題から外れて恐縮だが、私流のお見舞いのコツというか礼儀(みたいなもの)を書いてみたい。もちろん病気の種類、その程度は十分考慮しなければいけないが…。

またまた本題から外れて恐縮だが、私流のお見舞いのコツというか礼儀(みたいなもの)を書いてみたい。もちろん病気の種類、その程度は十分考慮しなければいけないが…。

## 2009年度自治労音楽協議会 年会費の納入のお願い

2009年度会費は2000円です。これまでの会費については、昨年4月に郵便振込用紙を送付してありますので、未納の会員のかたは納入してください。労金でも以下の口座で受け取ります。なお納入状況はメールでお問い合わせください。

問い合わせ先 ogawan@ubcnet.or.jp  
中央労働金庫新宿支店 普通預金 8929145  
自治労音楽協議会  
郵便振替 00110-8-571236  
自治労音楽協議会  
\*住所変更の場合は必ずご連絡ください。

# 「ジャズの世界」は人生の醍醐味

松井かおる (東京博物館労組執行委員長)

歌う学芸員とよばれるようになって、10年が過ぎた。ジャズピアノニストの夫と企画した「ライブ&レクチャージャズと東京」は毎回好評で、8年続いた。さまざまな事情で館の企画からは離れたが、一昨年には自主公演で開催し、話題となった。「ジャズと東京」による活動を活字に残す試みとして、講座で毎回配布していたテキストの内容の一部から発展させ、館の研究報告第12号(2006年3月発行)に論考「進駐軍時代のジャズ丸の内・銀座」を発表した。この中で、谷山忠男氏

(t.b)、五十嵐明要氏(a.s)、松崎龍生氏(v.i.b)など、ゲスト・ミュージシャンにインタビューした進駐軍時代の貴重な話を紹介することができた。ここ数年、女性ボーカル3人でジャズ・コーラスグループ「ガール・トーク」として活動したが、メンバー2人の妊娠等からしばらく開店休業状態となった。一昨年、夫が赤坂でピアノ・バーを始め、そこに出演しているボーカリストと、最近再びデュオの活動を始めている。「ビギン・ザ・ビギン」「コーヒー・ルンバ」などのほか、夫が新潟の知人から依頼されて作った曲「朱鷺の翼、空を舞う」もこのデュオで歌っている。この曲はフォーク調で親しみやすい曲なので、自治労音



右端が夫のジョー蒲地さん

楽協議会の方々とは再び交流の機会があれば紹介したい。その後大学まで何らかのコーラスと関わっていたせいか、ソロ・ボーカルの演奏には何となく物足りなさを感じる。複数でハモツた時の音の広がりや響きはソロ・ボーカルでは感じる事ができない、コーラスの醍醐味。さらにジャズの世界では音がぶつかったり、不思議な響きを生じたり、奥が深い。デュオからトリオ、カルテットに発展していければ、世界はさらに広がる。声質や音楽の方向性などが合うメンバーと巡り合うのはたやすいことではないけれど、地道に活動しながら夢への道を探っていききたい。



「ジャズピアノクラブJOE」で演奏中の松井さん(左) ジャズピアノクラブJOE TEL03-3584-1141 港区赤坂2-13-8 ロイヤルプラザB1F http://www.jk-music.com/schedule.html

「労働者派遣法の抜本改正を指す共同行動」が10月29日、日比谷野外音楽堂で、集会を開催しました。全国から約3000人が結集したこの集会のテーマは「派遣法改正 まったなし」労働者のための派遣法抜本改正を実現させるため。連合・全労連・全労協と各ナ

# 派遣法改正 まったなし10・29 日比谷大集会に出演

「労働者派遣法の抜本改正を指す共同行動」が10月29日、日比谷野外音楽堂で、集会を開催しました。全国から約3000人が結集したこの集会のテーマは「派遣法改正 まったなし」労働者のための派遣法抜本改正を実現させるため。

シヨナルセンターが一同に会しました。 集会前段、日音協の青木さんがユニオンの関係で集会の実行委員会に関わっており、青木さんの呼びかけで日音協都支部、千葉県支部、それに松本事務局長が加わり、集会前段の演奏、そして最後のデモ出しで舞台上で

の演奏を日音協としてやってきました。 あまり年寄りばかりでは元気が出ないからと、若い2人(狭石陽一、坂口朱穂)を前面に立てて「青い風」を歌い、その後日音協のメンバーが5曲ほど(集会参加者には外国人労働者も多いので、ペンセラモスなども入れて)歌いました。

政権は変わりましたが、派遣法はまだ改正をみていません。労働政策審議会の中では資本家の代弁者が巻き返しをはかってきており事態は楽観できません。こうした状況の中で「もう待てない!」「小手先の改正ではなく抜本改正を!」として開かれたのがこの集会です。 この年末にも昨年同様、多くの派遣労働者が生活の基盤を失われる可能性があります。「グビを切られて住まいもなくす」という貧困の姿を昨年の年越し派遣村は可視化し、強いアピールとなりました。



日比谷公会堂で演奏するみなさん